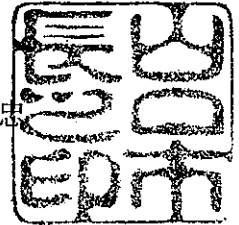




道建第 440 号
平成20年10月21日

国土交通省道路局長 様

山口市長 渡 辺 純 忠



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別添のとおり回答しますので
よろしくお願いします。

(1) 地方の道路整備財源の安定的な確保

地方においては、高速道路など主要な幹線道路のネットワークの形成をはじめ、通勤通学、防災対策、さらには緊急医療などの生活道路の面や、交通渋滞の解消、バリアフリー化、電線類の地中化などの良好な都市環境の確保の面においても、まだまだ道路整備は不十分である。さらに、道路の維持管理においても、今後、老朽化した橋梁等が急増し維持補修費の増大が見込まれる中、本市においては、毎年、多くの一般財源を投入し道路整備を行っている。よって、道路整備に対する市民の要望が依然として強いことも踏まえ、道路財源の地方への配分を高めることや地方道路整備臨時交付金制度を継続するなど、地方における道路整備財源の充実に努めていただけるよう要望する。

(2) 交通安全対策（歩道整備とバリアフリー化）

地方都市において、安心して通行できる歩道や自転車歩行者道の整備が不備な状況の下、子どもや高齢者などの交通事故が多発している。本市の場合、歩道の設置されていない橋梁も多数あり、自転車・歩行者の交通安全対策上の問題があるため、早急な対応が必要となっており、現在、市道橋3箇所において自歩道専用橋を設置するなどの対策を講じているところである。

歩道の設置に併せて、側溝の蓋掛けや電線類地中化等の方法により道路幅員の十分な確保や、交通弱者のために既設歩道の段差を解消するバリアフリー化、夜間の安全確保策となる歩道照明灯の設置など安心安全なまちづくりを実現する施設整備が急務となっている。

(3) 地域の事情を考慮した維持管理システム

地方が管理する道路の法面除草等の維持管理については、周辺住民等による自主的な活動に依存している面が大きい。しかし今後は、本格的な高齢社会の到来を迎え、地域による管理の困難さが予想されるところである。

そのため、道路構造上の必要はないものの、除草等の維持管理の軽減を図るため、路肩コンクリートを施工する方法や雑草の繁茂を抑制する工法を採用することは有効であると考えられるが、この場合には交付金の適用が受けられないことから、このような対策についても財政的な支援がいただけるようお願いしたい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式② 山口県山口市

○現状 本市は、平成１７年１０月に県央部に位置する山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の１市４町が合併し、新たな山口市として発足した。これに伴い、市域は約７３０ｋ㎡に拡大した。さらに、隣接する阿東町との間に「山口・阿東広域県央中核都市研究会」を設立し、「山口・阿東広域県央中核都市ビジョン」の策定作業を進めるなど様々な調査検討を行っている。 一方で、持続可能なコンパクトなまちづくりを進めるため、「山口市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成１９年５月に内閣総理大臣による認定を受けたところであり、今後は、基本計画に基づき中心市街地活性化の推進に取り組んでいく中で、道路改良や既設道路の美装化などを計画している。 また、広域経済・交流圏の形成に向けた広域県央中核都市の実現を目指し、新山口駅ターミナルパーク整備構想として、新山口駅を中心とした交通結節・アクセス機能の強化、山口県の玄関としての快適な都市空間の形成、新山口駅南北の一体性の促進という三つの機能の実現を掲げている。そうした中、現在、一般国道９号小郡改良、地域高規格道路小郡萩道路や地域高規格道路山口宇部線など国・県による整備も進められているところである。 とりわけ、地域高規格道路山口宇部線と新山口駅との結節は、山口県の玄関としての快適な都市空間の形成上、大変重要な位置を占めるものであると考えている。	○課題 （１）地域の一体性の確保 合併による市域の拡大に伴い、地域内外の交流を促進する道路ネットワークの整備は急務であり、国・県と連携を図り整備を推進しているところであるが、事業費確保の関係から、要望路線や市道について整備が進まない路線もある。 （２）災害対策 本市と阿東町を結ぶ唯一の幹線道路である国道９号は、大雨などの災害発生時に車両の通行ができなくなるおそれがあることから、従前から新たなルート整備を要望している。 また、山間部等に多くみられる生活道路には幅員の狭い箇所が多数存在することから緊急車両等の進入に支障をきたしている状況にあり、緊急事態への備えを万全にする必要がある。 （３）交通安全対策 本市の６５歳以上の高齢者の割合は、平成２７年に２５％を超える見込みであり、歩道の設置・改良など交通弱者のための交通安全対策は急務である。 また、本市の歩道設置率の現状は、幹線１級市道延長の２割にも達しておらず、住民からも歩道設置要望は数多く寄せられている。 歩道の設置に併せて、既設歩道の段差解消、側溝蓋がけによる幅員確保等のバリアフリー化の基盤整備も着実に実施していく必要がある。 （４）道路維持管理費の増加 合併に伴い管理する市道延長の増大やその老朽化により、路面維持、橋梁補修、除草、清掃などの維持管理コストは、今後も増加の一途を辿ることは明らかである。 とりわけ、橋梁の長寿命化に関しては、今後とも、計画的な点検の実施や予防的な措置、架け替えなど莫大な財政負担が生じることが懸念される。このような維持管理コストの増加に配慮した財政支援措置を要望する。
--	--

②-2 地域の目指すべき将来像

様式③

山口県山口市

(1) 快適な道路交通網

地域内外をつなぐ道路網が整備され、道路利用者が目的地まで迅速に移動できるようになり、交流が促進され、住民の一体感が確保されるとともに、利便性の向上に伴い、企業立地の促進、物流環境の整備などの経済側面、観光振興や都市部と農村部の交流などにより地域活性化が図られる。

(2) 高齢者・子どもにやさしい道路整備

交通弱者の安全確保のための歩道設置や側溝蓋掛け等による幅員確保、歩道の段差解消などバリアフリー化の基盤整備が進み危険箇所が減少し、併せて交通安全意識を向上させる啓発活動等のソフト事業を組み合わせ、交通事故が起こりにくい安全な道路交通環境が整備されている。

(3) 災害に強い道路整備

地域に張り巡らされている生活道路の中でも、山間部等に多くみられる狭小な道路において、道路幅員の確保や待避所等の設置が進み、災害時等における緊急車両の通行がスムーズになり、住民が安心して生活できるまちとなる。

(4) 市道の適正な維持管理

橋梁の定期的な点検、補修等が計画的に実施されていることで危険箇所が無くなり、橋梁架け替えの財政的な負担も少なくて済む。

また、道路美化ボランティアの認定制度により行政と活動団体、地域住民とのパートナーシップが確立され、公共施設利用者のマナーが向上し、適切な道路維持管理の実施と併せ、交通事故が減少する。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

山口県山口市

○重点事項	○代表事例（本市の代表事例）	○期待する効果や評価等
・ 地域活力の向上	広域的な道路ネットワークの整備 樫野川左岸の市道平井西岩屋線改築事業 L=4,300m 都市計画道路御堀平井線 L=2,000m 等	地域住民の一体感の確保、企業立地の促進、物流環境の整備、観光の振興、都市部と農村部の交流など。
・ 災害に強い国土づくり	生活道路の整備（道路拡幅や待避所の設置）	災害時における緊急車両の通行に支障がなくなり、住民が安心して暮らせるまちの実現。
・ 総合的な交通安全対策	自歩道専用橋の整備（下恋路橋、東津橋、氷上橋）	交通事故が起きにくい安全な道路交通環境。
・ 少子高齢社会に対応した バリアフリー社会の形成	バリアフリー化事業の実施（歩道設置・改良、側溝蓋掛け等）	安心して通行できる歩行空間の確保。
・ 地球温暖化の防止	渋滞箇所の解消（バイパスの整備、交差点改良等）	車両の通行がスムーズになり、CO ₂ の排出が削減される。